|  |
| --- |
|  |
| デジタルツールを活用した新しい体験提供の探求とその応用例 |
|  |
| 杉山 丈太郎 |
| 環境情報学部 2年 72244453 |
| 慶應義塾大学　武田研究会 |
|  |
| **概要**： |
|  |
| **キーワード**： |
|  |

# はじめに

近年、デジタル技術の進化により、新しい体験を提供するための手法が多数開発されている。特に、アプリ、Webサイト、拡張現実（AR）などのデジタルツールは、一般的な体験を豊かで楽しいものに変える可能性を秘めている。本研究では、これらのデジタルツールを活用して体験を向上させる手法を探求し、その適用例として「七夕祭」というイベントに特化したアプリケーションを開発した。

# 研究の目的

本研究の目的は、デジタルツールを活用して新しい体験を提供する手法を探求し、それを具体的なアプリケーションの開発に適用することである。具体的には、慶應義塾大学 湘南藤沢キャンパスで毎年開催されている学園祭である「七夕祭」を楽しむためのアプリケーションを開発し、その効果を評価した。[1]

# 方法

本研究では、XcodeとSwiftUIを用いて、「七夕祭」を楽しむためのアプリケーション「tanafes2023」を開発した。

このアプリケーションは、地図上にピンを表示して展示の場所を示し、ピンを押すことで展示の詳細情報を見ることができる。

また、AIを活用した会話機能や、願い事を叶える画像生成機能など、七夕祭の体験を豊かにするための機能を盛り込んだ。

開発したアプリケーションはApp Storeに公開し、実際に200人以上の方に使っていただいた。その後使用した人に向けてアンケート調査を実施し、結果を比較した。

# 制作物

# 結果

アプリケーションは200人のユーザーに使われたが、アンケートは10人から回答を得た。アンケートの結果から、アプリの全体的な満足度は高く、特に地図機能の使いやすさと楽しさが評価された。一方で、投稿することへのハードル感やAIとの会話機能、願いを叶える機能については評価が分かれた。

# 分析

アンケートの結果から、アプリの全体的な満足度は高いことが確認できた。特に地図から展示の場所を探す機能の使いやすさと楽しさが評価され、アプリの主要な機能がうまく機能していたことがわかった。しかし、投稿することへのハードル感やAIとの会話機能、願いを叶える機能については評価が分かれた。これはユーザーの個々の好みや期待によるものかもしれない。

# 結論

本研究では、デジタルツールを活用して新しい体験を提供する手法を探求し、それを具体的なアプリケーションの開発に適用した。アンケートの結果から、アプリケーションは全体的に高く評価され、特に地図機能の使いやすさと楽しさが評価された。しかし、いくつかの機能については改善の余地がある。

# 今後の展望

今後の研究では、アプリケーションのさらなる改善と、より多くのユーザーからのフィードバックを得るための方法を探求する。また、事前の準備の重要性を認識し、次回のイベントに向けての準備をより早く始めることを目指す。

**参考文献**

1. “第34回 七夕祭”. https://www.tanabata-fes.com/, (参照2023-07-20).